

がん検診受診率向上等に向けたアンケート調査結果

【目的】

平成 25 年度に健康くまもと 21 推進会議委員を対象に実施したがん検診受診率向上に向けたアンケート調査から5年を迎え、改めてがん検診の受診率向上に向けた課題の見直しを行うため、再度関係者の意見を集約し、今後の取り組みの参考とするためアンケート調査を行ったもの。

【対象】

健康くまもと 21 推進会議委員

【方法】

現在の課題を平成 25 年度調査の課題項目から重要度順に 3 つを選択し、その理由を記入するもの。重要度順に点数化し、集計しました。

【関係団体へのがん検診受診率向上等に向けた再アンケート調査結果】

課 題	平成25年度	順位	平成29年度
がんに関する正しい認識と理解	1	➡	1
効果的・効率的な広報	2	➡	4
がん検診の受診方法の周知	3	➡	2
気軽に受診できる環境づくり	4	➡	3
校区単位の健康まちづくりの展開	5	➡	9
職域及び保険者との連携	6	➡	7
未受診者への受診勧奨	7	➡	5
かかりつけ医を持つことの普及促進と連携	8	➡	8
若い世代への教育	9	➡	6

【結果概要】

1 位は前回と同じ「がんに関する正しい認識と理解」という結果になり、主な理由としては、「がんを他人事のように考えている人が多い。」「受診を促すには、医学に基づいた知識の普及・啓発が必要。」等が挙がりました。

次いで2位が「がん検診の受診方法の周知」となり、主な理由としては、「具体的な検査のイメージがついていない人も多い。」「まず検診の必要性とその方法を周知することが効果的。」等が挙がり、3位が「気軽に受診できる環境づく

り」となり、主な理由として「対象者のニーズにあった検診場所・時間が重要」「病院、クリニックなどで検診を受ける場合、雰囲気づくりが大切。」等が挙げられました。

また、啓発・広報に関するものが上位を占めていますが、「積極的な受診勧奨を行うためには職域及び保険者との連携は不可欠」「医師による受診勧奨は強い動機づけとなる」等のご意見もあり、啓発を行うにあたり、「職域及び保険者との連携」、「かかりつけ医を持つことの普及促進と連携」といった関係機関との連携も改めて重要と思われました。

【これまでの取り組みについて】

(効果があった点、反省点など自由記載)

- がん検診のリーフレットを理事会で配布し、会員への周知を実施した。
- 団体内でのパンフレット配布や定例会時の啓発などにより、推進員としての理解の向上を図った。
- 大学へ子宮がん検診受診勧奨としてチラシを作成し配布を行い、若年層への啓発を実施している。

(ご意見等)

- ポスターや配布物等があれば検診へのきっかけづくりになると思う。会員のほとんどが女性であるため、女性特有のがんについては声かけもしやすい。きっかけとなるものがあれば取り組みやすい。
- 乳がんに罹患しながらも、仕事をしながら最期まで頑張っていた職員がいる。上司や家族の理解もあったため、治療を受けながら仕事が続けられたと思う。そういった環境づくりも大事だと思う。